

農学部

動物生産学プログラム

取得できる学位 ★学士（農学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、資源動物の生産、ライフサイエンスなどについて学習を深めることができる教育プログラムであり、草地を扱った粗飼料利用学、資源動物の遺伝資源を扱った動物遺伝学、資源動物個体の生理機能を扱った動物の解剖と生理、動物生体機構学、発生学、動物生産生理学、動物生殖学、資源動物の生産環境を扱った動物衛生管理学、動物生産と環境、資源動物の生産技術を扱った家畜人工授精論、乳牛の生産と管理などについて専門的な知識を習得することができる。

■ 人材育成目標

本プログラムは、資源動物の生産に関連する分野とライフサイエンス分野で活躍できる基礎的・応用的な能力を持った研究者・技術者を養成することを目指している。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- 広い学問領域の一般的基礎知識を修得し、常識、教養ある人格を形成する。
- 植物ならびに動物の生産を基盤とした経済活動である農業の基礎的知識を習得し、地球的規模から見た現在の農業について理解する。
- 栽培植物の起源や生育特性および基本的な栽培管理法を理解し、地域農業の成立条件と関連づけて説明することができる。
- 資源動物の分子から個体にいたる生理機能の特徴を理解するとともに、資源動物の管理技術とその理論を理解し、健康な資源動物から安全・安心な動物性タンパク質を効率的に生産する方法を説明できる。
- 食料、資源・環境に係る経済的な基礎知識を理解し、地域農業や国際的な視点から関連づけて説明することができる。
- 大学で学ぶにあたって必要な基本的な能力を習得する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- 現在の資源動物生産における課題を見出し、体系的に習得した知識から、その具体的対策を講じることができる。もしくは、未来を展望することができる。
- 資源動物の新規生理機能の開発を模索し、効率的な動物生産ならびに動物性タンパク質の生産の未来像を展望できる。
- 先端技術を活用した効率的な動物生産を解説・論じることができる。また、修得した知識をもとに新たな生産技術開発を展望できる。
- 動物生産や動物性タンパク質の生産に関わる基礎的実験の理論ならびに方法を修得するとともに、自ら実際に実験を行って結果を分析して、レポートを作成することができる。
- 動物生産学分野に関わる知識、理論および技術を総合的に理解し、当分野の課題・問題の解決に向けて適切に研究を展開できる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 英語を活用して会話や文章で日常的なコミュニケーションを図ることができる。
- b) 自分の考えを図表などを用いて効果的に示せると同時に、他者と論理的に議論できる。
- c) 目標の実現や課題解決に向けて、合理的かつ具体的方策を企画立案し遂行することができる。
- d) データベースを用いて情報を正確に収集できるとともに、得られた情報を正確に分析できる。
- e) 自分の考えを正確かつ論理的に文章で表現できる。
- f) 体系的に修得した知識を基盤として、多様な事象に対し論理的に思考することができる。
- g) 自分の考えを正確に他者に伝えることができるとともに、他者の考えを受容して、相互の考えを共有することができる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 周囲の課題に対して常に興味をもち、持続的にその課題を追求することができる。
- b) 他者と協調・協同して、課題の解決に取り組むことができる。
- c) 課題の解決に向けて、自分自身で規範を設定し、それに従うことができる。
- d) 目標の実現や課題の解決に向けた行動を、粘り強く継続して行うことができる。
- e) 動物の飼養管理などを通じて、規則的なリズムで日常生活を過ごすことができ、社会の一員として貢献できる資質を養う。

■ プログラムの履修要件

- ・農学、特に動物生産学に深い関心を持ち、積極的に勉学する強い意志を持ち続けることができること。
- ・生物学を始めとした自然科学全般の基礎的学力を有すること。
- ・英語の基礎的学力を十分有すること。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

本プログラムでは、動物生産学分野にとどまらず、幅広い学習を行うことを基本とし、また、研究者および技術者として必要な各種の動物生産技術や実験技術を習得させる。1年次に教養教育と専門教育入門に関連する科目を重視し、2年時以降、学年進行に伴って専門教育をより重視した、いわゆるクサビ型のカリキュラムを編成している。専門教育に関しては2年次には学科共通の必修科目、3年次には本プログラムの科目を多く配し、4年次には4年間の学習の集大成となる卒業論文と演習を履修する。